

## 女子目線で見ると！男性ジェンダー問題の解決

### 3つの目標のつながり



- ①ジェンダー教育の推進
- ②ジェンダー問題の解決により、みんなが気持ちよく働ける社会へ
- ③男女が平等に教育を受けることで生まれる経済効果

3つのつながりに関連するのは？

ジェンダー平等が実現されることで、性別に関係なく、誰もが教育を十分に受けたり、気持ちよく働いたりすることにつながる！  
 →日本や外国が行っている取組は、ほとんどが女性の地位を上げることを目的としている。  
 ☆女性差別の影に隠れた男性差別があるのでは？

**研究動機**  
 ○女性の問題ばかりが注目されているため、**男性差別の認知度を高めたい。**  
 ○**男性の本音を知る良いきっかけ**となる。  
 ○男性差別の問題を**あえて女性目線**で見ると、新しい発見ができる。

**「ジェンダー」という言葉について**  
 ・「ジェンダー」とは、**社会的・文化的に形成された性別**のこと。  
 ・1980年代後半以降、制度上は男女の教育機会が均等になっているにもかかわらず、「**結果の不平等**」が生じた背景を探る必要から、社会的・文化的につくられる性への注目が提唱された。

**実は、男性ジェンダー問題解決への取組はすでに行われていた！↓↓↓**

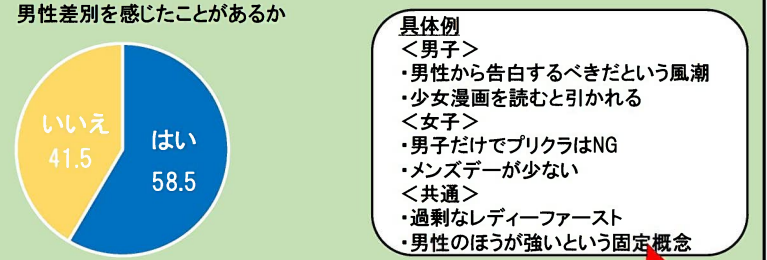
**男性ジェンダー問題に対する取組**  
 ・スウェーデン：様々な危機に直面した男性の相談と救済のための機関である「**男性のための危機センター**」  
 ・国連、EU：21世紀に入って以降、「**ジェンダー平等社会の実現のために男性、男子の役割を見直す必要がある。**」という視座から、男性対象のジェンダー政策を活性化  
 ・日本：地方自治体などで少しずつ男性相談の仕組みが広がっている。  
 例)福岡県→**男性DV被害者のための相談ホットライン**  
**男女共同参画センター**

**疑問Q&A(一部抜粋)**  
 福岡大学人文学部 藤田由美子教授にお答えいただきました。  
 質問1.なぜ日本はジェンダー問題への取組が遅れているのか。  
 回答:①夫婦と子の世帯モデルにおいては、主として夫が扶養し、妻が扶養されるという前提に立つ制度設計がされている。  
 ②急激な産業構造の転換に日本社会の構造が追いついていないため。  
 →「男は仕事、女は家庭」という「**性別役割分業**」は、産業革命以降の近代産業社会においては都合のよいシステムであった。  
 質問2.日本がジェンダーギャップ指数上位の国と同じ取り組みをしたらこの状況は解決するか。  
 回答:私たちの意識や社会慣習が変わらないことには、ジェンダーギャップ指数上位国の水準に近づくことは難しい。  
 (意識や社会慣習を変えるには、教育の力が必要だと考えている)

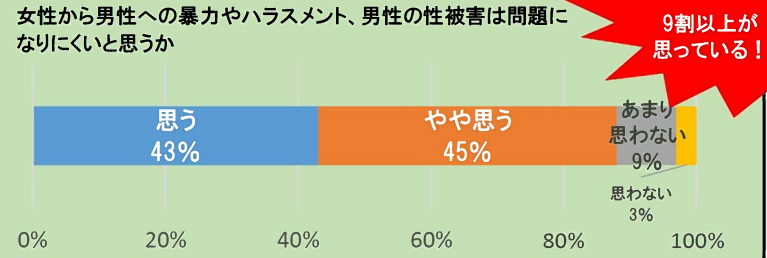
**まとめ**  
 私たち高校生が、男性ジェンダー問題解決のためにできることは、認知度を高めることである。男性ジェンダーの存在や問題点を少しでも多くの人に広め、認知度を上げる手助けなら誰でもできる。  
 また、私たちが意識すべきなのは、「**男性と女性を全く区別しない**」ではなく、「**差別となる行動や発言をしない**」ではないだろうか。なぜなら、男性と女性が違うのは当たり前だからだ。男女を区別するのは自然なことだし、全く区別しないというのは、ほぼ不可能である。しかし、それが差別となる言動につながり、相手を傷つけたり、嫌な思いをさせたりすることもある。  
 男女が互いの違いを認め合い、尊重し、助け合う社会の実現のためには、一人一人の協力が不可欠である。この機会に自身の言動を見直して、女性ジェンダー問題だけでなく、男性ジェンダー問題にも目を向けることで、**案外、身近なところにジェンダー問題が存在していることに気付くかもしれない。**

**課題と今後の方針**  
 課題は大きく2点である。1点目は、具体例が学生の意見に偏っていることだ。学生だけでなく、**実際に社会に出て働いている男性や、高齢者の意見も聞くべきである**と考える。また、「**高齢者は男女の固定概念にとらわれやすい**」というイメージが本当なのかもきちんと調べたい。  
 2点目は、SDGsの他の目標とのつながりを考えていないことだ。選んだ目標だけでなく、他の目標の達成にもつながることはないか考えていきたい。そうすることで、この研究の新たな側面が見えてきて、より深い理解や画期的なアイデアにつながるかもしれない。  
 これらの課題を踏まえ、より充実した課題研究ができるように努めたい。

### アンケート結果<京都高校2年生男女 195名>



### 世論調査<全世代男女 974名>(日本法規情報より)



じゃあ、私たちに何が  
できるのかな？

広める方法  
とは？

この事実を広める  
ことならでき  
るんじゃない？

**解決策①**  
 ポスター、チラシを作成  
 →四コマ漫画にしたり、面白味を取り入れたりするなど、目に留まりやすい工夫する。

**解決策②**  
 SNSで呼びかける  
 →#男子の本音  
 のようなタグ付けをしてシリーズ化する。

**解決策③**  
 新聞に意見文を掲載  
 →意見文を考え、新聞社に応募。  
 掲載されれば、学校の知名度も上がる。

<ポイント>  
 ・新聞は多くの人に見てもらえる  
 ・固定概念にとらわれやすい**高齢者の目に特に留まりやすい**  
 ・意見文を書くことで、自分たちが**研究した内容がより深まる。**  
 ・ジェンダーについて深く考えるきっかけとなる

**参考文献**  
 ・上野千鶴子(2016.11)「ジェンダー概念の意義と効果」www2.kobe-u.ac.jp(2020年8月15日取得)  
 ・内閣府男女共同参画局(2012.08)「用語集」  
 http://www.gender.go.jp/about/danjo/glossary/glossary.html(2020年9月27日取得)  
 ・佐佐木幸綱(2001)『歴史の中のジェンダー』藤原書店  
 ・山口明穂、和田利政、池田和臣(2013)国語辞典第十一版 旺文社  
 ・梅津忠夫、金田一春彦、飯倉篤義、日野原重明(1995)日本語大辞典 講談社  
 ・藤田由美子(2018)『教育社会とジェンダー』学文社  
 ・駐日欧州連合代表部(2016.03)「男女平等社会を目指すEU」  
 https://eumag.jp/feature/b0316/(2020年8月27日取得)  
 ・佐野陽子(2001)『ジェンダー・マネジメント』東洋経済新報社  
 ・内閣府男女共同参画局「男女共同参画関係機関、情報・相談窓口一覧」  
 www.gender.go.jp/research/ifo/pdf/01-8.pdf(2020年10月7日取得)  
 ・伊藤公雄(2019.04)「怯える」男たちをケア…男性危機センターの大切な役割」  
 https://gendai.ismedia.jp(2020年8月24日取得)

## 第2回高校生 SDGs 選手権大会 ポスター発表部門

学校名	福岡県立京都高等学校
発表タイトル	女子目線で見ると！ 男性ジェンダー問題の解決
設定した課題	ジェンダー問題の解決、教育の推進、よりよい社会へ
関連するSDGsのゴール・ターゲット	4, 5, 8
ポスターの説明	<p>私たちは、17の目標から3つの目標を選び、つながりや問題点、解決策を考えました。研究を進めていくうちに、ジェンダー不平等は様々な問題の根底に存在し、早急に解決しなければならないことに気づき、ジェンダーに注目しました。その中でも「男性ジェンダー」は認知度が低く、男性差別により起こる問題は表面化しづらいことがアンケートと世論調査から分かりました。調査結果をふまえて解決策を考えてみたのですが、“男性の育休取得の推進”や“男性専用車両をつくる”“メンズデーの普及”など規模が大きすぎて、私たち高校生にできることはあまりないように感じられました。だから私たちは、テーマを「男性ジェンダー問題を広める」に変更し、どうしたら認知度を高めることができるか考えました。班のみんなと案を出し合い、実際に新聞社に意見文を投稿しました。採用してもらえませんが、行動に移したことに意味があると思うし、「男性ジェンダー」の存在を広めることにつながると思います。</p>
制作の意図やアピールポイントなど	<p>私たちは、少しでも多くの人に「男性ジェンダー」の存在や現状を知ってもらうためにこのポスターを制作しました。また、私たちの研究の1番のアピールポイントは、男性差別の問題をあえて女子の目線で見ている点です。女性が男性の気持ちを理解することが男性ジェンダー問題を解決する第一歩となると考えました。</p>
苦労した点	<p>男性の生の声を集めることに最も苦労しました。駅やスーパーでのインタビューを予定していたのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できず、校内アンケートという形をとりました。</p>
その他(自由記載)	